72

日本における医薬系博物館
――類型化の試み――

野尻佳与子
奈良女子大学大学院 人間文化研究科

【研究の背景】医史学を研究する者にとって，医療史料の保存と活用は共通の課題ともいえるものである．博物館を利用する機会も少なくない．そこで，国内の医薬関連の博物館を調査し，博物館学的な観点から種類別の分類を試みたので報告する．本発表で述べる「医薬系博物館」とは，医学や薬学などの分野に関する資料を収集，保管，展示して，教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し，その教養，調査研究，レクリエーション等に資するために必要な事業を行い，あわせてこれらの資料に関する調査研究を行うことを目的とする常設機関のことである．

主題領域は，自然科学系だけでなく，医療や薬業と関わりのある民俗信仰や生命観，生活史，商業史など人間文化から派生する事物も対象となる．したがって，歴史・郷土・民俗・考古・文学や顕彰記念館などの人文科学系の博物館にも，医薬関連の施設が多く存在している．（日本薬史学会総会 2017 年会（大宮）にて報告）

先行研究としては，1994 年から 1995 年に順天堂大学によって，「医療史料の保存と活用に関する研究」が実施され，国内 80 カ所の博物館資料館などの施設を抽出して，アンケート調査を実施した報告書がある．そして，第 99 回日本医史学会総会（1998 年 5 月 16 日）函館大会では，「日本における医史料の蒐集と保存について」といった内容のシンポジウムが開催された．

【目的と方法】目的は，①国内に存在する医薬系博物館の数，②運営形態や設置場所，③展示内容などについて全体の傾向を把握することである．方法として，日本博物館協会が運営する Web サイト内（https://www.j-muse.or.jp/）会員館ガイドや，「全国博物館総覧」「全国博物館園職員録」などの書籍から博物館を抽出し，マトリックス型のフレームワークにあてはめて分類した．

【結果】2017 年 3 月に公表された最新の政府統計（社会教育調査：2015 年 10 月 1 日現在）によると，国内には博物館および類似施設が 5690 館（登録博物館 895 館／博物館相当施設館 361 館／類似施設 4434 館）あり，医薬系博物館は約 200 館存在していることを確認した．医療系学部の大学博物館や製薬会社の企業史料室，家伝品を所蔵する個人資料館，コレクターや研究者の蒐集品を保管する私設資料室などがある．設置目的や展示内容，さらに規模，運営母体，主題領域，地域，時代などは千種万様である．各館を運営形態と機能の観点から類型化を試みたところ，次のように分類することができた．

〈A 総合博物館〉部分関連型〈B 大学博物館〉総合研究型／医療教育型／沿革紹介型／史料活用型〈C 地域博物館〉地域資料型／健康情報型／先人顕彰型／負の記録型／建物保存型／観光振興型／薬園自然型〈D 民間博物館〉組合学会型／社会貢献型／社史広報型／趣味蒐集型

【考察】各博物館を分類する際には，一つの類型に特定することが難しく二つ以上の目的や機能を併せ持っている館が多くみられた．医薬系博物館の萌芽とも考えられる江戸後期の「薬品会」や，明治から昭和初期の「衛生展覧会」と比較すると，現代の医薬系博物館は歴史紹介に関わる展示内容が多く，テーマは細分化されている．開館後の経年による建物の老朽化，保存環境の不備，収納スペースの不足といった設備上の問題だけでなく，来館者減少，職員数削減，未整理資料の山積，専門知識不足，調査研究の停滞といった運営面の問題も抱えている．

医薬系博物館は「日本医学図書館協会」のような組織が結成されていないため，情報交流や相互協力の機会は少ない状況に置かれている．今後の課題として，博物館同士は良好な連携体制を構築するとともに，日本医史学会などの関連学会では共同研究や企画展・講演会を支援するなど，各博物館の所蔵資料や機能を活かした活動ができるように検討することも必要であろう．